2027年3月期第2四半期（中間期）（連結）

証券コード｜ 3583

決算補足説明資料

2026年11月10日



オーベクス株式会社

目次

AuBEX GROUP

01 – 会社概要

02 – 経営理念

03 – 事業内容

04 – 2027年3月期第2四半期（中間期）決算概要（連結）

05 – 配当について

06 – 中期経営計画

07 – サステナビリティについて

©2026　オーベクス株式会社

商　　号	オーベクス株式会社
資　本　金	19億3,983万円
代　表　者	代表取締役社長　栗原 則義
創　　立	1892年（明治25年）12月12日
設　　立	1893年（明治26年）12月29日
本　　社	〒130-0026 東京都墨田区両国4-31-11 ヒューリック両国ビル9F
連　絡　先	TEL：03-6701-3200(代)　/　FAX：03-6701-3023
事業内容	【テクノ製品】 サインペン先、コスメチック用ペン先の製造販売 【メディカル製品】 医療機器の製造販売
従業員数	124名（連結 353名）　※2026年3月31日現在
グループ企業	オーベクステクノロジー株式会社 オーベクスメディカル株式会社 天津奥貝庫斯技研有限公司

©2026　オーベクス株式会社

真心をこめて、暮らしに欠かせない文化と科学を提案することにより、豊かな社会づくりに貢献できる企業を目指します。

人と社会に正しい貢献を。

当社の創業者である渋沢栄一は、著書である『論語と算盤』の中で「富を成す根源は何かといえば、仁義道徳、正しい道理の富でなければ、その富は完全に永続することができぬ。」と述べています。
その理念を受け継ぐ当社は、企業の存在価値を「どんなに技術が進歩し、さらに高度な時代になろうとも、人と社会に対する正しい貢献の在り方」と考えています。

いつの時代も、可能性をあきらめず、まっすぐに。

当社は、明治・大正・昭和・平成と社歴を積み重ねてきました。その間、戦争、度重なる恐慌、大震災、戦火による全工場の焼失、中折帽子の斜陽化、石油危機、バブル経済崩壊など幾多の試練に直面してきましたが、先人たちは、誠実さと不屈の精神で活路を切り開いてきました。
この誠実さと不屈の精神は、私たちの誇りであり、かけがえのない財産として受け継がれています。

「より役立つもの、より優れたもの」を。

当社は、豊かな社会づくりに貢献するため、「より役立つもの、より優れたもの」を常に追求しています。これらを実現するためには、アイデアを生み出す「企画開発」、それを実用化する「技術開発」、安定した製品を生み出す「生産技術」、より品質を高める「品質管理」のどれひとつをとっても欠かせないものであると考えています。「より役立つもの、より優れたもの」を生み出すために長年受け継がれてきた誠実さと不屈の精神で日々モノづくりに取り組んでいます。

モノづくりを通じて拡がる未来へ。

当社の社名であるAuBEX（オーベクス）は、黎明、曙を意味するフランス語の“AUBE”と可能性、未来の意味合いを持つ“X”とからなる合成語であり、「新しい可能性への曙」「拡がる未来」を意味しています。
豊かな社会づくりに貢献する企業を目指し、これからも誠実さと不屈の精神をもって、モノづくりを通じて「人に想いを伝える。人の想いに応える。」企業として、その未来を拡げていきます。

©2026　オーベクス株式会社

当社は、近代日本資本主義の父といわれる渋沢栄一が設立した会社です。1892年（明治25年）に舶来山高帽子の国産化を目的とする東京帽子株式会社として創業し、1985年（昭和60年）に現在のオーベクス株式会社に社名を変更しております。
1892年の創業以来、長い歴史の中でいくたびかの変遷を経て、長年の帽子製造で培った加工技術を応用し、現在ではペン先メーカーとして世界市場で高いシェアを持っております。ペン先製造技術をさらに進化させ、医療機器分野やコスメ分野へと、その事業活動を拡げております。

テクノ製品事業



サインペン先、マーキング用ペン先などの筆記具関連、アイライナー用ペン先、ネイルケア用ペン先などのコスメチック関連を主力製品として、その他スタイラス用ペン先などのPC周辺関連をはじめ、芳香剤用芯などを取り扱っております。

主要取引先：国内および海外筆記具メーカー、化粧品OEMメーカー



メディカル製品事業



自社開発の流量制御チューブを採用した薬液注入器や安全性と利便性を追求した親水性ガイドワイヤーを主力製品として、その他医療用材料を取り扱っております。

許可：東京都 高度管理医療機器等販売業許可・東京都 第一種医療機器製造販売業許可
主要取引先：公立私立大学病院および主要病院



©2026　オーベクス株式会社

決算サマリー

連結売上高 9.3%減　　営業利益 23.4%減　　中間純利益 64.3%減

■売上高は、メディカル製品事業は6.1%増収となったものの、テクノ製品事業が15%大幅減収
■営業利益は、テクノ製品事業の売上減少と製造コスト高の影響により減益
■中間純利益は、営業利益の減少と特別損失の計上および税金費用増加により減益

売上高 ↘	27.7億円	前年同期比 △9.3%
営業利益 ↘	2.6億円	前年同期比 △23.4%
経常利益 ↘	2.5億円	前年同期比 △28.5%
親会社株主に帰属する中間純利益 ↘	1.2億円	前年同期比 △64.3%
営業利益率 ↘	9.7%	前年同期比 △1.8ポイント
経常利益率 ↘	9.0%	前年同期比 △2.5ポイント

©2026　オーベクス株式会社

損益計算書（P/L）

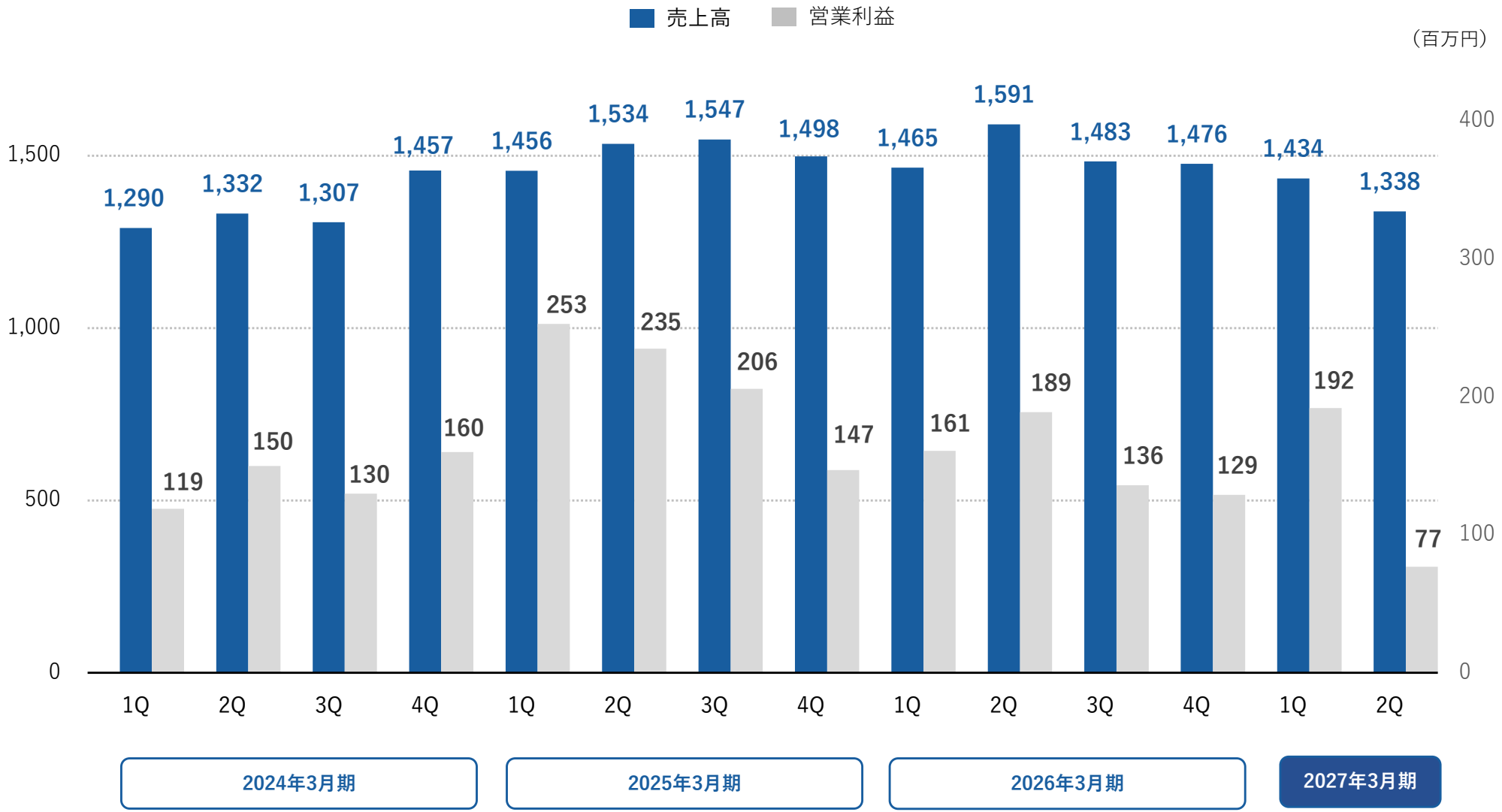
・売上高は、テクノ製品事業の落込みの影響が大きく、全体で9.3％減の2,772百万円。
・営業利益は、テクノ製品事業における売上減少に加えて物価高騰による原材料、エネルギー、物流費などの製造コスト上昇により、23.4％減の269百万円。
営業利益率は9.7％となり、前年同期比で1.8ポイント減少。
・中間純利益は、営業利益減少と特別損失計上および税金費用増加により、64.3％減の126百万円。

（百万円）

	2026年3月期				2027年3月期	前年同期比
	第1四半期	第2四半期累計期間	第3四半期累計期間	通期	第2四半期累計期間	
売上高	1,465	3,056	4,540	6,015	2,772	△9.3%
営業利益	161	351	487	615	269	△23.4%
経常利益	148	350	494	630	250	△28.5%
親会社株主に帰属する当期純利益	218	354	462	573	126	△64.3%

©2026　オーベクス株式会社

売上高・営業利益の四半期推移

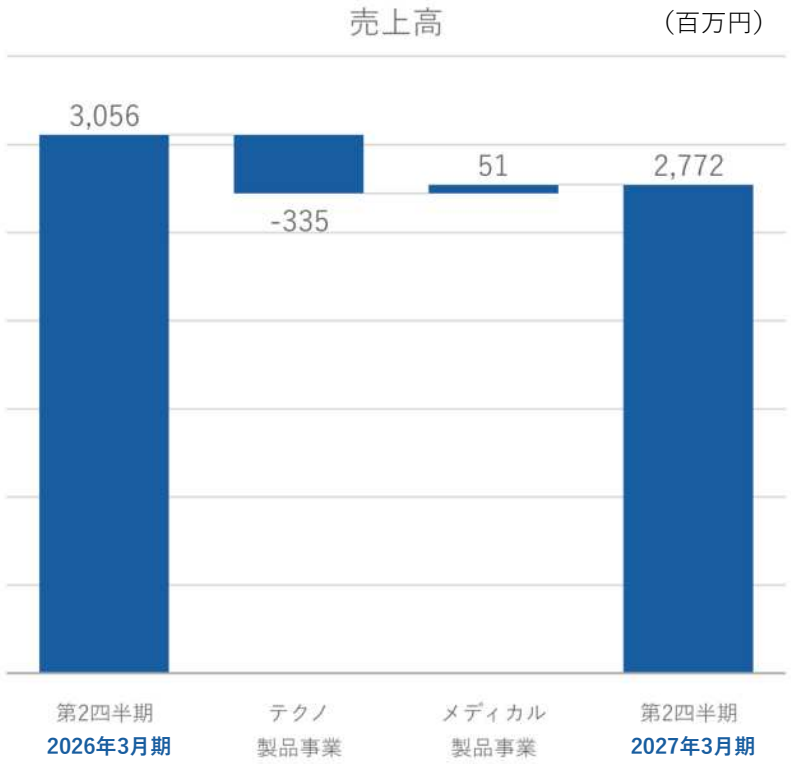


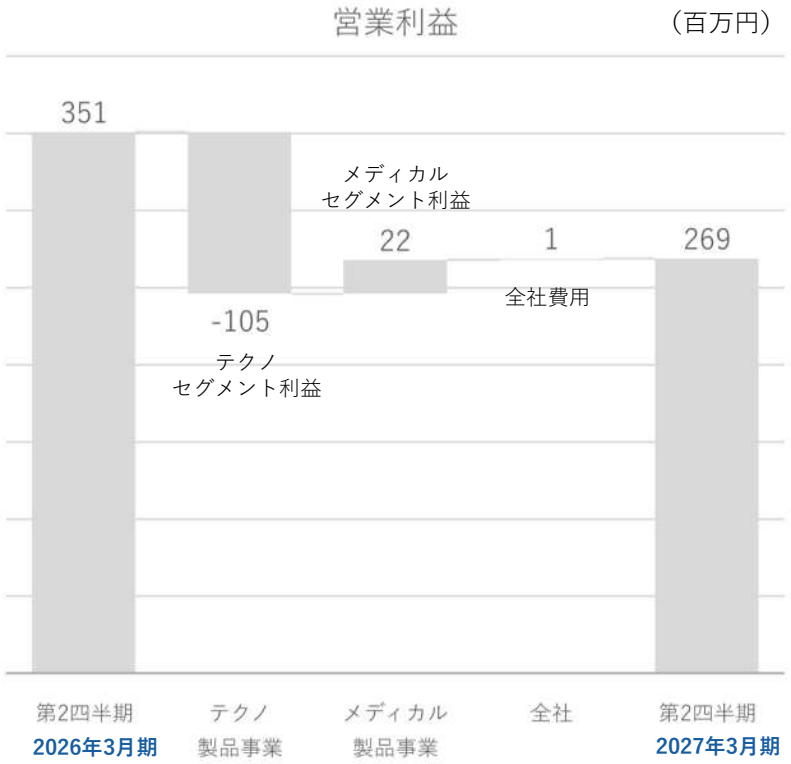
©2026　オーベクス株式会社

売上高・営業利益の増減要因

・売上高は前年同期比で284百万円減少。テクノ製品事業は、コスメチック用ペン先は復調傾向にあるものの主力製品の筆記具用ペン先が中国市場で低迷。メディカル製品事業は、主力製品である薬液注入器が堅調に推移。

・営業利益は前年同期比で82百万円減少。テクノ製品事業における売上減少とエネルギー価格や原材料などの製造コスト上昇により、収益性が低下。





©2026　オーベクス株式会社

セグメント別状況

テクノ製品事業　主力製品である筆記具用ペン先の売上が中国での市況変動を受けて大幅に減少。
高付加価値製品のコスメチック用ペン先は復調となったものの、減収減益。

メディカル製品事業　積極的なプロモーション活動により、主力製品である薬液注入器とガイドワイヤーの売上が堅調に推移し、増収増益。

（百万円）

	2026年3月期 第2四半期累計期間		2027年3月期 第2四半期累計期間		前年同期比（%）		売上構成比率
	売上高	セグメント利益	売上高	セグメント利益	売上高	セグメント利益	
テクノ製品事業	2,229	448	1,893	342	△15.0	△23.6	68.3%
メディカル製品事業	827	58	878	80	+6.1	+38.5	31.7%

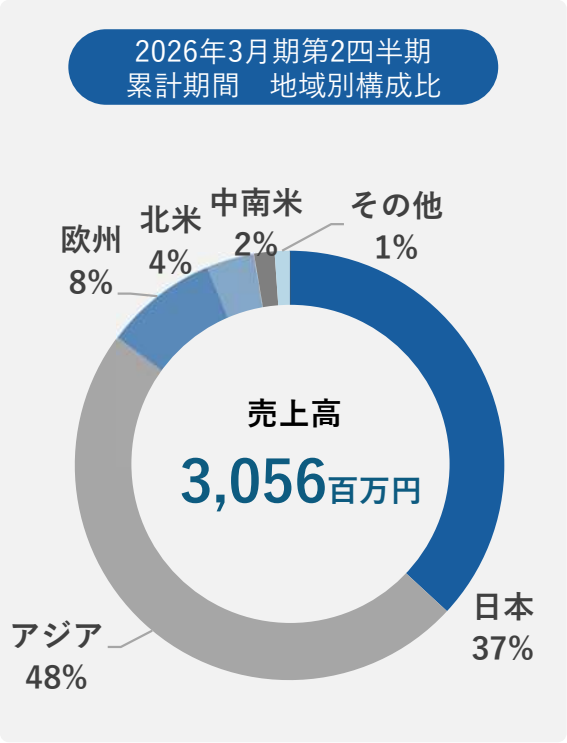
©2026　オーベクス株式会社

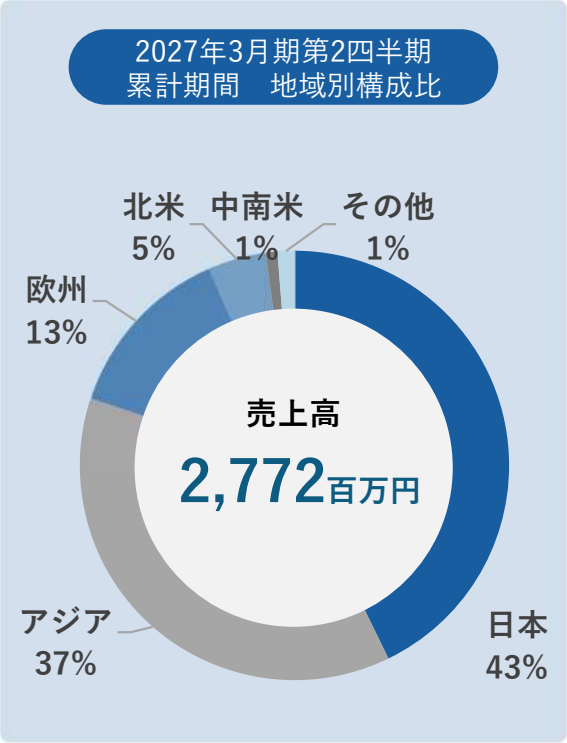
地域別売上状況

日本国内の売上は堅調に推移。欧州ではコスメチック用ペン先の売上が伸長した一方で、中国を含むアジア地域の筆記具用ペン先の売上が大きく減少。

（百万円）

	2026年3月期 第2四半期 累計期間	2027年3月期 第2四半期 累計期間	前年同期比 増減率(%)
日本	1,126	1,185	+5.3
アジア	1,475	1,033	△30.0
欧州	260	369	+41.7
北米	111	123	+10.9
中南米	47	24	△49.1
その他	34	35	+2.7
合計	3,056	2,772	△9.3





©2026　オーベクス株式会社

連結キャッシュフロー

・営業活動によるキャッシュ・フローは、467百万円の資金の増加。
・投資活動によるキャッシュ・フローは、有形固定資産の取得等により66百万円の資金の減少。
・財務活動によるキャッシュ・フローは、配当金の支払等により124百万円の資金の減少。
・当中間連結会計期間末における現金及び現金同等物の残高は、2,808百万円。

（百万円）

	2026年3月期 第2四半期累計期間	2027年3月期 第2四半期累計期間
営業活動によるCF	276	467
投資活動によるCF	△46	△66
財務活動によるCF	△247	△124
現金及び現金同等物の増減額	△8	280
現金及び現金同等物の中間期末残高	2,742	2,808

©2026　オーベクス株式会社

貸借対照表（B/S）

（百万円）

資産の部	2026年3月期	2027年3月期 第2四半期	増減
流動資産	6,609	6,698	89
固定資産	3,555	3,515	△40
有形固定資産	3,146	3,083	△63
無形固定資産	43	43	0
投資その他の資産	365	388	22
資産合計	10,165	10,214	48

（百万円）

負債・純資産の部	2026年3月期	2027年3月期 第2四半期	増減
流動負債	1,358	1,366	7
固定負債	1,554	1,552	△2
負債合計	2,913	2,918	5
株主資本	6,975	6,986	10
資本金	1,939	1,939	－
資本剰余金	517	517	－
利益剰余金	4,801	4,822	20
自己株式	△282	△292	△10
その他の包括利益累計額	276	308	32
純資産合計	7,251	7,295	43
負債・純資産合計	10,165	10,214	48

2027年3月期
第2四半期（中間期）

自己資本比率	流動比率	固定比率
71.4%	490.2%	50.3%

©2026　オーベクス株式会社

業績予想（2026年7月29日発表）

- 2027年３月期の通期連結業績予想につきましては、売上高6,000百万円、営業利益500百万円、経常利益480百万円、親会社株主に帰属する当期純利益330百万円を見込んでいます。

（百万円）

	第140期	第141期	第142期		
	2025年3月期（実績）	2026年3月期（実績）	2027年3月期（予想）	2027年3月期 第2四半期（実績）	進捗率（%）
売上高	6,035	6,015	6,000	2,772	46.2
営業利益	841	615	500	269	53.8
経常利益	814	630	480	250	52.2
親会社株主に帰属する当期純利益	580	573	330	126	38.4

©2026　オーベクス株式会社

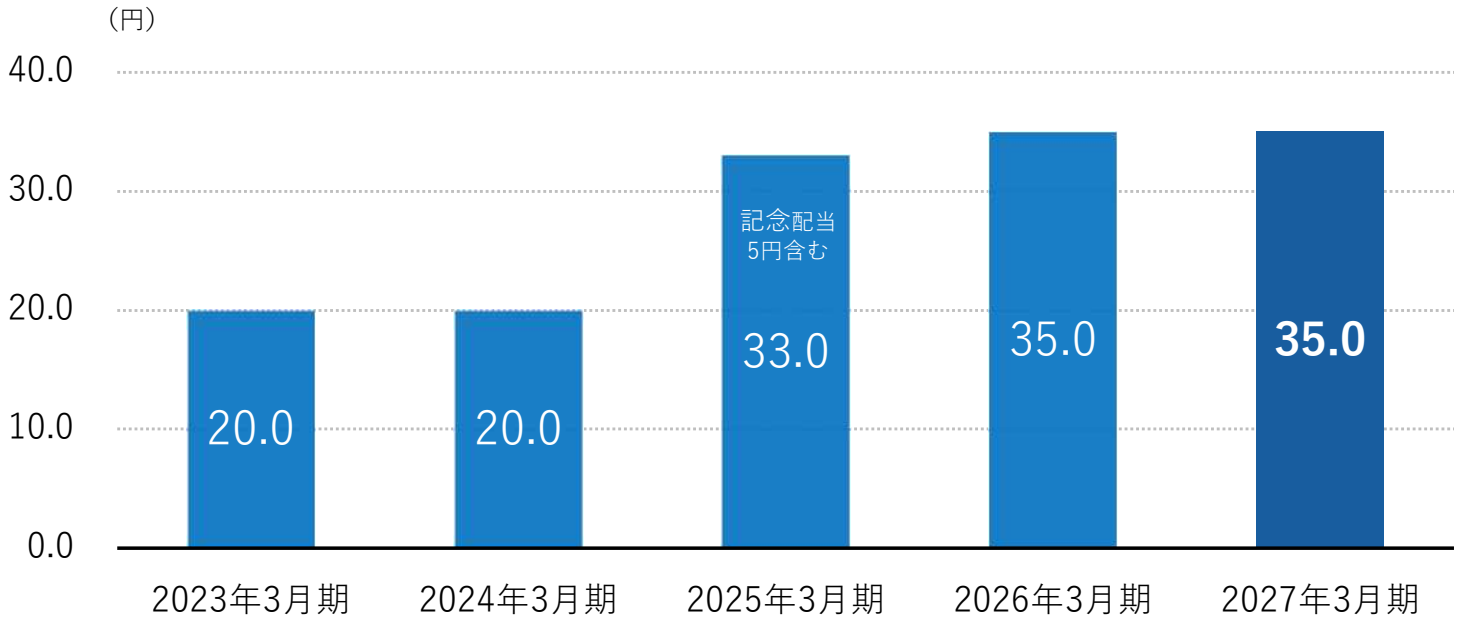
配当方針

利益配分に関しましては、株主の皆様への利益還元を最重要課題の一つと考えており、将来に向けた研究・開発、設備投資等を行うための内部留保の充実を図りつつ、中長期的視野に立って収益に対応した安定配当を行うことを基本方針としております。

配当予想

2027年３月期の配当は、「1株当たり年間配当金 35円」を予定しております。

配当金の推移



連結配当性向	11.8%	12.8%	15.8%	16.7%	28.9%

©2026　オーベクス株式会社

長期ビジョン達成に向けたストーリー

- テクノ製品事業は高付加価値製品の開発強化により事業基盤としての収益性の更なる向上を図る。
- メディカル製品事業はベセルフューザー®を成長のドライバーとして位置付け収益基盤を強化する。
- グループコア技術を結集し、第3の事業を創出する。

2024年度/140期　第8次中期経営計画（実績）
売上高　60.3億円
営業利益　8.4億円
ROE　8.9%

2027年度/143期　第9次中期経営計画
売上高　70億円
営業利益　10億円
ROE　9%以上

2034年度/150期　第10次～ 中期経営計画

長期ビジョン達成に向けた主要施策

第9次中期経営計画

テクノ製品事業
- コア技術の深化による高付加価値製品と環境負荷低減製品の開発
- 増産対応への設備投資
- 省力化推進による生産効率化
- 海外拠点の拡充

メディカル製品事業
- 既存市場拡販と高付加価値製品の新規分野への参入
- 海外展開準備と新規販路開拓
- 新工場建設用地取得予定

第10次～ 中期経営計画

テクノ製品事業
- 高成長エリアへの販売強化
- 高付加価値製品の開発
- 増産に向けた工場リニューアル

メディカル製品事業
- 高付加価値製品の企画開発
- 海外展開の本格化
- 増産に向けた新工場建設予定

©2026　オーベクス株式会社

基本方針：ESG経営を推進し、新たな価値創出と持続可能な成長を追求する
スローガン：To The Next Stage　～次のステージに向かって～

基本戦略

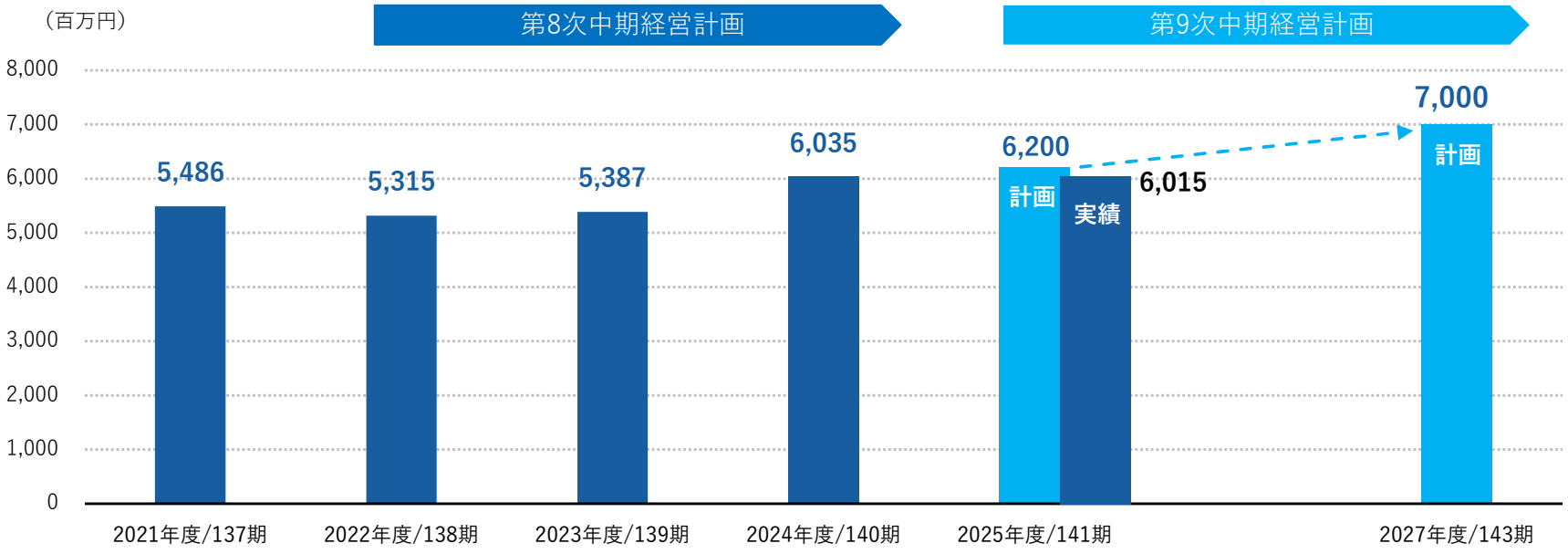
基本戦略-1	基本戦略-2	基本戦略-3
■強固な収益基盤の構築 当社の強みである成形技術をさらに進化させ、新たな価値を創出する。	**■環境負荷低減の推進** 温室効果ガス排出量削減の取り組みを進めるとともに環境配慮型製品の開発、拡販を行う。	**■成長を支える人財育成** 人的資本投資を行うことで、従業員エンゲージメントを高める。ガバナンスを強化し、持続可能な体制を維持する。

最終年度定量目標（2027年度/143期）				中計3ヶ年合計
売上高	営業利益	営業利益率	ROE	設備投資
70億円	10億円	14.3%	9%以上	15億円以上
140期比 +16.0%	140期比 +18.8%	140期実績 13.9%	140期実績 8.9%	前中計比 +167.8%

©2026　オーベクス株式会社

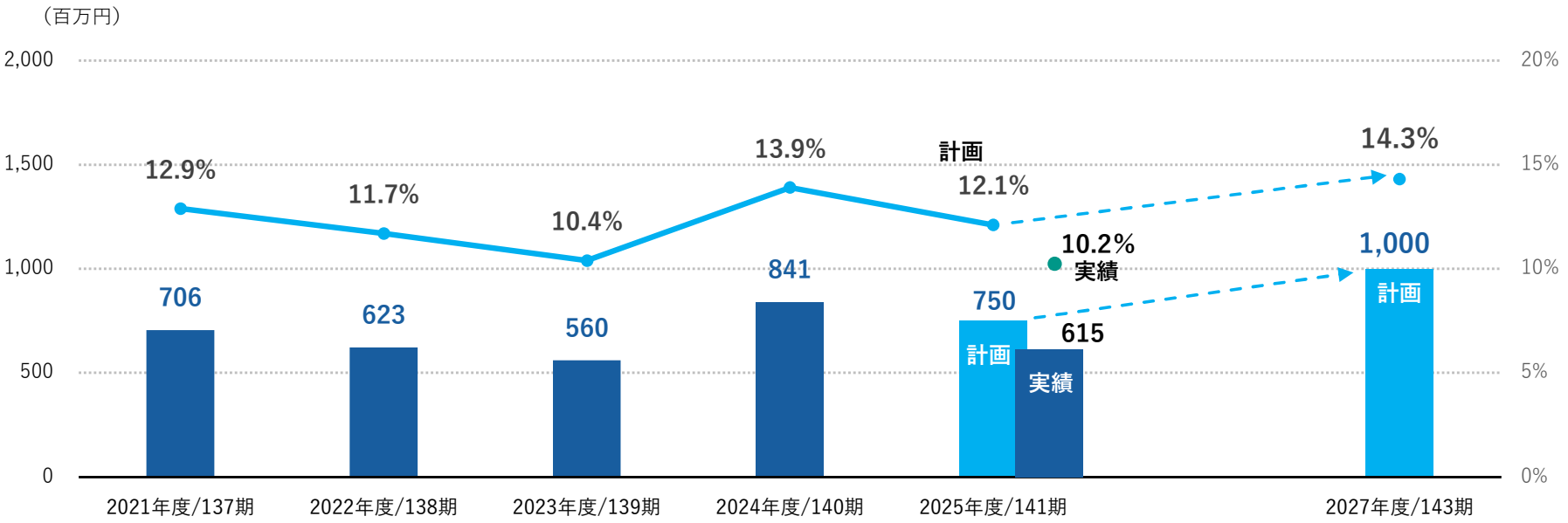
AuBEX GROUP

売上高
（百万円）



営業利益
（百万円）

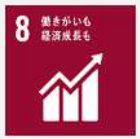
営業
利益率
（%）



©2026　オーベクス株式会社

サステナビリティへの取組

当社の創業者である渋沢栄一翁の経営哲学「道徳経済合一説」（仁義道徳と生産殖利とは元来ともに進むべきもの）は、持続可能な社会を目指すものであります。その精神を受継ぐ当社は、「真心をこめて、暮らしに欠かせない文化と科学を提案することにより、豊かな社会づくりに貢献できる企業を目指します。」を経営理念に掲げ、「オーベクスグループ行動規範」を定めるとともにリスクマネジメント方針をはじめとする各方針を策定しております。環境問題、社会的課題への対応を経営課題の重要事項のひとつと位置付け、ESG経営を推進することで持続可能な社会の実現に貢献してまいります。

環　境 Environment	大気汚染対策　廃棄物対策 環境に配慮した製品開発	
社　会 Social	働き甲斐のある職場環境　人財育成 人権の尊重　地域社会への貢献	
ガバナンス Governance	コンプライアンス（法令と社会規範の遵守） 積極的な情報開示　リスク管理	

©2026　オーベクス株式会社

本資料のお取り扱い上の注意

本資料に記載された見解や見通し、ならびに予測等は資料作成時点での当社の判断であり、その情報の正確性を保証するものではありません。

様々な要因により、今後の業績は本資料の内容と異なるものとなる可能性があります。また、本資料は当社をご理解いただくために作成したものであり、投資勧誘を目的としたものではありません。

IRに関するお問い合わせ

https://www.aubex.co.jp/contact_request/

オーベクス株式会社

コーポレートサイト　https://www.aubex.co.jp/